実践記録

学校/学年	小学校 / 5年	
教科等：単元名	学級活動：自分の言動に責任をもつ	
キーワード	悪口 ネット掲示板	
情報モラル指導 モデルカリキュ ラム表における 目標	分類	情報社会の倫理 法の理解と遵守 安全への知恵 情報セキュリティ 公共的なネットワーク社会の構築
	大目標項目数字 大目標項目内容	a 3 : 発信する情報や情報社会での行動に責任を持つ
	中目標項目番号 中目標項目内容	a 3 - 1 : 他人や社会への影響を考慮して行動する
授業会場	パソコン教室 普通教室 特別教室〔 〕 その他〔 〕	
学習の目標	インターネット上での行為は、不特定多数への情報発信という性質を持つことを知り、他人への悪口を掲示することがどのような影響を及ぼすかについて理解する。	
使用教材	教材名	ネット社会の歩き方
	製作者	C E C
	入手先(URL 等)	http://www.cec.or.jp/net-walk/index.html

展開案

	学習活動	指導 評価
導 入	1 一般的な悪口や、ノートや壁への落書きについて、どう思うか考え、発表する。	・悪口を言われる気持ちにたって考えさせる。 ・書いたものは消せないこと、誰の目に触れるかわからないことを押さえる。
展 開	2 電子掲示板について説明する。 3 「ネットで悪口は要注意」の映像を3画面目まで見せ、どのように思うか考えさせる。 4 映像の残りを見せる。	・たくさん人に情報提供ができることや、交流の手段になるといった良さにも触れる。 ・展開1で考えたことに加えて、インターネット上でどのような影響があるのかを特に考えさせる。 ・書き込みの記録は保存されていて、どこから誰が送ったものか特定されることを押さえる。
お わ り	5 授業を振り返って感想を記入する。	悪口を書いて喜ぶ行為の愚かさや、インターネット上の行為は不特定多数の広範囲の人に影響を与えることが理解できたか。

授業の成果

- ・小学校5年生で掲示板やメールを利用している児童は小数だが、あらかじめその危険性について学んでおくことは有効であった。インターネットで情報を流すことの怖さを感じ取れたようだった。
- ・インターネットでなくても「悪口はよくない」という再確認になった。

指導のポイント・留意点

- ・「自分が書いたとわからなければいい」といった安易な発想をしがちなので、記録などから特定できることを押さえるのが大切である。
- ・不適切な表現を見つけたらどう対処するかについても押さえておきたい。また、資料を使って実際に罪に問われる事例を扱うこともよいと思われる。